

平成29年度

尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター 運営記録

施設位置図		巻末資料	
尾瀬山の鼻ビジターセンター運営記録	… 1	ビジターセンター傷病者対応事例	…24
コラム「尾瀬ボランティア」	…11	尾瀬のできごとをふりかえる	…25
尾瀬沼ビジターセンター運営記録	…12	平成28年シーズンの尾瀬トピックス	…28
コラム「尾瀬自然解説ガイド」	…22	尾瀬保護財団の沿革と概要	…29
コラム「一般の方から寄せられた声」	…23	ビジターセンターの自然体験プログラム	

公益財団法人 尾瀬保護財団

ビジターセンター位置図



尾瀬山の鼻ビジターセンター

〒378-0411 群馬県利根郡片品村大字戸倉字中原山898-9



尾瀬沼ビジターセンター

〒967-0532 福島県南会津郡檜枝岐村字燧ヶ岳1 番地



ビジターセンターまでの交通案内

尾瀬山の鼻ビジターセンターまでは・・・

- ・群馬県片品村の鳩待峠から徒歩で約 60 分。
- ・鳩待峠まではふもとの戸倉から乗合バス・タクシーで約 25 分

尾瀬沼ビジターセンターまでは・・・

- ・福島県檜枝岐村の沼山峠休憩所から徒歩で約 60 分
- ・沼山峠まではふもとの御池から乗合バスで約 20 分

平成29年度 尾瀬山の鼻ビジターセンター運営記録

I. ビジターセンター管理運営

群馬県が設置した尾瀬山の鼻ビジターセンター（以下、山の鼻VC）の管理運営を平成8年度から受託しています。

1. 運営期間

- (1) 職員駐在：平成29年4月17日(月)～平成29年11月6日(月)（204日間）
- (2) 開所期間：平成29年5月15日(月)～平成29年10月29日(日)（168日間）
- (3) 休館日：なし

※4月17日～5月14日は開所準備等（除雪・開設準備・公衆トイレ管理、仮オープン等）、10月30日～11月6日は閉所作業等です。

2. 取扱時間

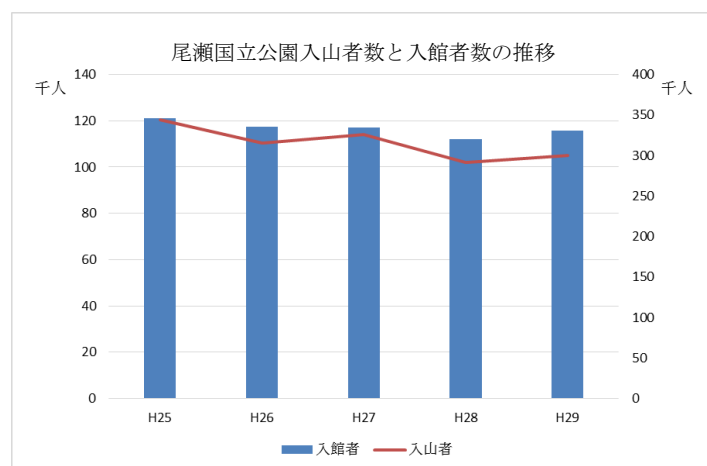
- (1) 施設開館 7:00～18:00
- (2) 窓口案内 7:30～16:00

※開館・窓口案内の時間は、入山者の状況に応じて柔軟に対応しています。

3. 入館者数 ※(内)は尾瀬国立公園入山者数

平成29年度	115,578	(284,390)
平成28年度	112,209	(291,860)
平成27年度	117,142	(326,100)
平成26年度	117,411	(315,400)
平成25年度	121,245	(344,200)
平成24年度	135,135	(324,900)

(単位:人)



4. 職員構成

- (1) 人数 9人 ※うち2人(*)は群馬県職員
- (2) 構成

職	氏 名	主な分掌業務
所 長	西 澤 政 春	全体統括
管 理 員	入 倉 修 平	統括補助、環境学習指導、自然解説、施設管理
管 理 員	菅 原 與 晴	登山道整備、情報収集、館内展示管理、自然解説、窓口対応
管 理 員	森 山 暢 希	登山道整備、情報収集、クマ対策、窓口対応、自然解説
管 理 員	山 田 駿	情報収集、館内展示管理、自然解説、窓口対応
管 理 員	神 田 律 子	情報収集、館内展示管理、自然解説、窓口対応
管 理 員	榎 原 な つ 美	情報収集、館内展示管理、自然解説、窓口対応
* 主 幹	宝 珠 山 恭 子	管理運営、自然解説（駐在期間6月の2週間）
* 技 師	中 山 ち さ	管理運営、自然解説（駐在期間5月の2週間）

Ⅱ 自然解説事業

尾瀬を訪れる利用者に、自然とのふれあいを通じて尾瀬にふさわしい利用方法を啓発するとともに、豊かな自然の大切さを意識してもらうことを目的としています。

そのため、山の鼻ＶＣ内の展示室及びレクチャールーム、野外掲示板等を利用し、入山者に対する自然解説及び利用案内を実施しました。

表 平成２９年度 自然解説活動のまとめ

区分	自然観察会	スライドショー	環境学習	団体レクチャー
参加者数（人）	377(105.9%)	1,095(75.4%)	154(136.3%)	181(80.8%)
実施回数（回）	40(47)	47(50)	27(35)	7(9)

※ 表中カッコは、上段（％）が前年度比、下段（数値）が前年度実績回数

1. 自然観察会(写真１)

土日、祝日を中心に、山ノ鼻研究見本園をフィールドとして実施しました。

- ①. 実施場所：山ノ鼻植物研究見本園
- ②. 実施時間：7:15～8:00
- ③. 担当者：山の鼻ＶＣ職員

2. スライドショー(写真２)

自然観察会と同様の期間で開催しました。主に山小屋宿泊者を対象とし、季節写真や図表等、プレゼンテーションソフトを用いて担当者が解説することで、尾瀬への理解を深めてもらいました。

また、開催案内を山小屋宿泊者の夕食時間に合わせる等、集客に努めました。

- ①. 実施場所：山の鼻ＶＣ内のレクチャールーム
- ②. 実施時間：19:00～19:40
- ③. 担当者：山の鼻ＶＣ職員

3. 環境学習ミニガイドツアー(写真３)

山の鼻ＶＣ周辺での解説者（ガイド）付きの自然観察を含む環境保全施設見学ミニツアー（環境学習ミニガイドツアー）を行いました。

施設の見学ツアーについては、山ノ鼻地区の公衆トイレをメインに排水処理のしくみや汚泥処理作業、また、環境を守るためには多くの費用がかかることなど、環境保全への取り組みについて説明しています。

- ①. 実施日：5月下旬～10月中旬までの毎日
- ②. 実施場所：山の鼻ＶＣ周辺の県有施設、研究見本園及びその周辺
- ③. 対象者：家族連れ等の少人数のグループ及び学校等の教育旅行団体
- ④. 実施時間：一行程あたり1時間以内
- ⑤. 担当者：山の鼻ＶＣ職員、環境学習指導員、尾瀬ボランティア等

4. 団体レクチャー

事前に依頼を受けた学校関係者や尾瀬を勉強している社会人グループに対して、スライドショーや自然観察会を開催し、環境保全の取り組みや自然への理解を深めていただきました。

5. 館内解説

不定期で館内展示物の利用案内を含めた解説を、職員や尾瀬ボランティアが実施しました。

6. 展示

- ① 自然情報システムによる花・動植物等尾瀬情報の検索
 - ② 植物の開花や鳥などの観察ポイント、登山道の危険箇所などの情報提供
 - ③ 気象情報を館内や野外掲示板に表示（天候・最高最低気温・各種注意報等）
 - ④ 写真による代表的な植物や、尾瀬内各地域の様子展示
 - ⑤ 時節ごとの観察ポイントを紹介した写真やイラスト
 - ⑥ 尾瀬に生息する動物の剥製、毛皮、骨の展示
 - ⑦ 〃 「鳥の鳴き声タッチペン」を活用した、野鳥コーナーの設置
 - ⑧ 学習用顕微鏡を活用し、トンボ・チョウなどの観察コーナーを設置
 - ⑨ バス・電車などの公共交通機関の情報提供
 - ⑩ 至仏山を構成する蛇紋岩の展示、及び蛇紋岩性質の体験コーナー
 - ⑪ オコジョ、ヤマネコーナー（写真、目撃情報の紹介）の展示
 - ⑫ ニホンジカ（生態、尾瀬への影響、対策等の紹介）の展示
 - ⑬ 写真展示コーナーの設置（野鳥、植物）
 - ⑭ ツキノワグマコーナー（生態、目撃情報、対策等の紹介）の展示
 - ⑮ 尾瀬国立公園のジオラマ、レリーフマップの設置
 - ⑯ 入山者が撮影した尾瀬の思い出をプリントし、貼り出す「思い出コーナー」を設置
 - ⑰ 尾瀬保護財団としてのイベント情報の表示
- 入館者目線でレイアウトを考え、常により良いレイアウト変更を行いました。

7. 自然情報等の収集・提供

利用者への情報提供や解説資料充実のため、職員が定期的に尾瀬ヶ原、至仏山、アヤマ平を巡回し、登山道や動植物の状況を調査しました。その結果を「尾瀬情報」としてまとめ、尾瀬周辺の各施設、財団ホームページ、関係各機関へ提供しました。

また、毎朝の天候、最低最高気温、学校団体の入山情報及び、毎日のトピックスを「今朝の尾瀬山ノ鼻」、「今日の尾瀬」として毎日、ブログで情報発信を行いました。

放射線量の測定を山の鼻V C前で週1回（毎週月曜日）、牛首分岐等の尾瀬内3ヶ所は巡回に合わせて実施し、その結果を財団ホームページで公表しました。

Ⅲ. その他の公園施設等の維持管理（写真 4）

尾瀬保護財団では、山の鼻V Cの他に、群馬県が整備した、山の鼻公衆トイレ（山ノ鼻地区）、竜宮公衆トイレ（竜宮地区）および群馬県所管の木道・橋等を、平成8年度から管理受託しています。

1. 山の鼻公衆トイレ

山の鼻公衆トイレ及び、合併浄化槽の管理状況は以下のとおりです。

①. 供用期間

平成29年4月28日～平成29年11月5日（192日間）

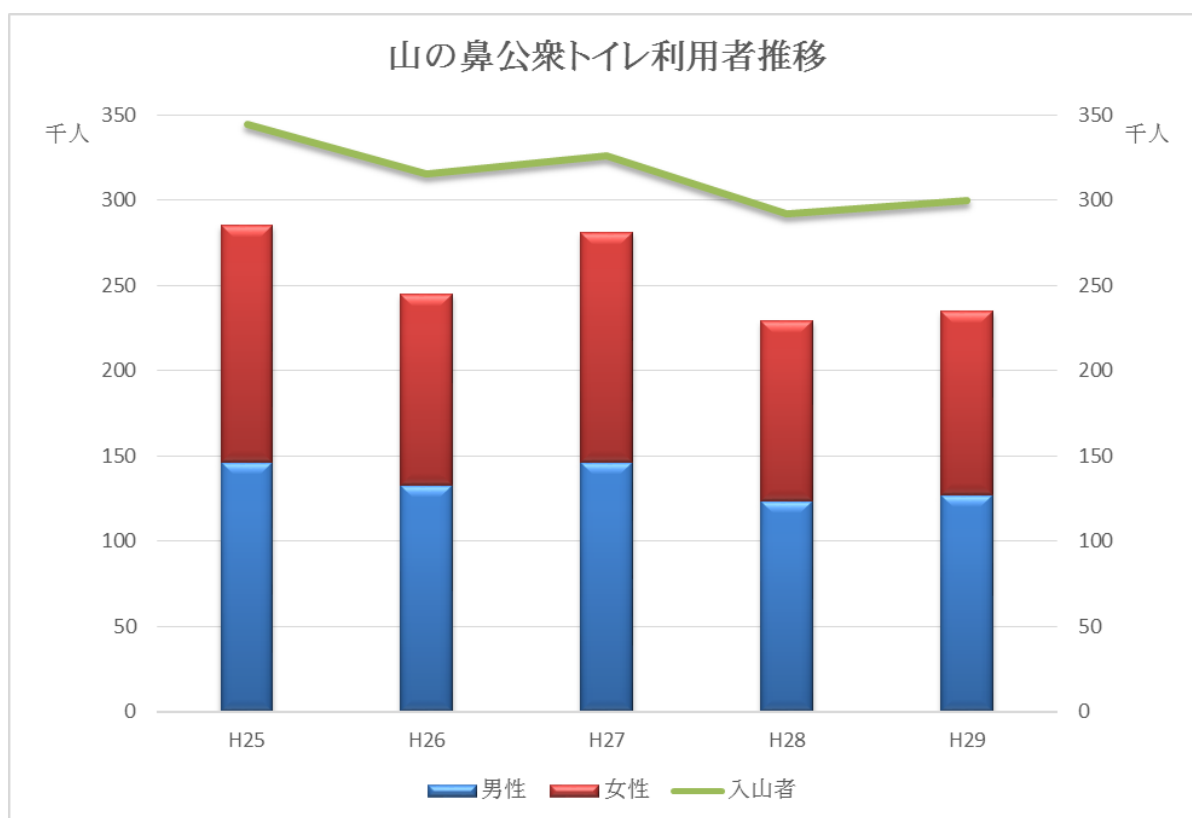
※4月28日～5月14日、10月23日～11月5日の間は男女兼用として開設

②. 利用者数

(単位：人)

年 度	利用者数	男性	女性	入山者数
平成29年度	233,779	126,613	107,166	(284,390)
平成28年度	229,421	123,369	106,052	(291,860)
平成27年度	281,191	146,134	135,057	(326,100)
平成26年度	244,727	132,337	112,390	(315,400)
平成25年度	285,325	146,357	138,968	(344,200)

平成29年度の山の鼻公衆トイレ利用者数は、前年度比101.9%。



③. 維持管理

(7) 清掃

1日1回の定時清掃のほか、随時点検を実施し、きめ細かな清掃を行うことで快適な利用環境に配慮しました。また、施設周辺の美化巡回も含めてゴミのない公衆トイレをめざしました。

(イ) 点検

繁閑を考慮したペーパー補給や巡回を行い、快適な環境を維持しました。

(ウ) 合併処理浄化槽の維持

専門業者による定期的な保守・点検作業のほか、異臭や異状の有無を把握するように努めました。

(I) 啓発活動

トイレ施設の環境保護に対する取り組みの紹介、協力金についての掲示を作成しました。

2. 竜宮公衆トイレ

竜宮公衆トイレ及び、合併処理浄化槽の維持管理業務を専門業者により実施しました。
職員は、定期的に協力金の回収と清掃やその他管理状況の点検を行いました。

3. 木道

群馬県管理木道のうち、老朽化等により通行に支障がある箇所について、状況を確認しながら補修をおこないました。

①. 横田代地区

通行時の危険箇所を補修しました。

②. 下ノ大堀地区

下ノ大堀川橋の前後 36 基の腐朽箇所を定点観察するとともに、危険箇所の啓発看板の設置、及び補修を実施しました。

IV. 植生復元等の事業の実施

1. 荒廃した湿原の植生復元作業地の経過観察

群馬県尾瀬保護専門委員会からの依頼を受けて、平成 16～18 年度に施工した植生復元作業地の回復状況についての経過観察を巡回時に実施しました。

①. 実施場所：横田代 標高約 1,880m 付近

②. 実施回数：巡回時随時

③. 実施内容：平成 18 年度に設置した観察区(5 区)について経過観察としての写真撮影

2. 至仏山保全対策の各種取り組み（写真 5）

当財団が設置する至仏山保全対策会議において、植生保護・登山者安全の観点から、至仏山東面登山道を山ノ鼻登山口からの上り利用とし、下りでの使用は禁止としているため、注意看板の設置など啓発活動を実施しました。

山の鼻 V C では各登山口への注意看板の設置、各山小屋等への情報提供を行い、東面登山道の踏み出し防止柵の設置・撤去及び、登山道の補修作業については、尾瀬ボランティアの協力の下、作業を実施しました。

また、東面登山道の蛇紋岩を上りやすくするため、石にステップを切る試みを実施しました。

V. 巡回活動の実施

歩道の安全確保、自然情報・利用情報収集、利用者への案内・解説・啓発、美化清掃等を目的に実施しました。

1. 巡回のエリアと頻度

①. 竜宮方面 : 1 回／週

②. 見晴方面 : 1 回／週

③. 赤田代方面 : 1 回／週

- ④. 三条ノ滝方面 : 2 回／月
- ⑤. 至仏山方面 : 2 回／月
- ⑥. 長沢～アヤメ平方面 : 1 回／月
- ⑦. 見晴～アヤメ平方面 : 1 回／月
- ⑧. 白尾山～皿伏山～尾瀬沼 : 1 回／年

Ⅵ. その他

1. 収入金の管理

パンフレット協力金、募金、公衆トイレチップ等による現金収入を集計・管理しました。

2. 開所式の実施（写真 6）

本年度の山の鼻 V C の開所式を、平成 29 年 5 月 15 日に開催しました。

尾瀬の関係者や山小屋のご主人など尾瀬に関わる方々の他、登山者など一般の方にも多数参加していただき、盛況となりました。

また、今回は尾瀬ボランティアによるハーモニカ演奏に加え草笛演奏をしていただきました。

3. 尾瀬ボランティアの活動支援

シーズンを通じた入山口啓発活動やシーズン終盤の「ありがとう尾瀬清掃活動」のコーディネート、現地窓口としてのボランティア活動支援を行いました。（尾瀬ボランティアについては、P. 11 のコラムを参照してください）

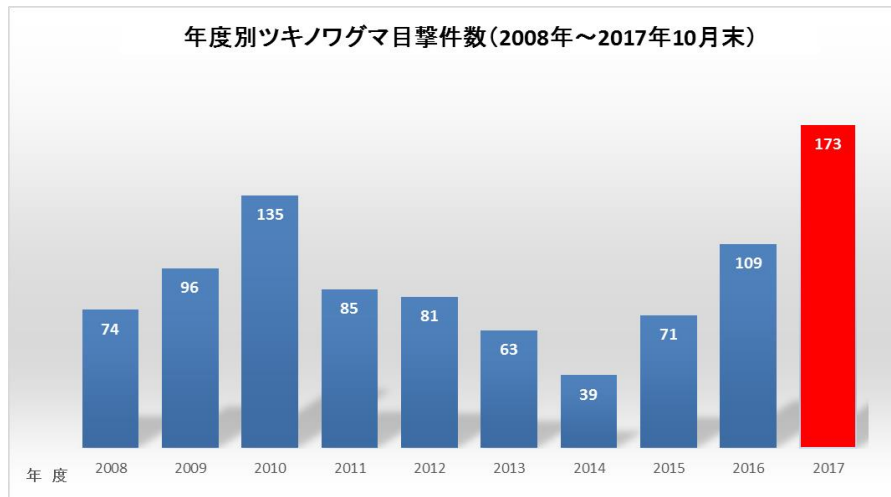
4. 傷病事故の対応（写真 7）

山の鼻 V C で扱った今年度の傷病事故件数は 43 件（平成 28 年度は 30 件）ありました。山の鼻 V C 窓口での簡易な手当や、片品村遭難対策救助隊の臨時隊員として協力した件数が含まれます。※18 年度(9 月中旬)より AED(体外式自動除細動器)を山の鼻 V C に設置。

尾瀬ヶ原地区（群馬県側）救助体制の流れを整理し、迅速な救助体制が整えられるよう準備しています。（救急連絡系統図、対応等作成）（巻末資料 1 「傷病者対応事例」 P. 24 もあわせてご覧ください）

5. ツキノワグマ対策（写真 8）

ツキノワグマ対策員に任命された職員が、ツキノワグマ出没対応マニュアルに基づいて対策を行いました。職員は平成 29 年 5 月 12 日にツキノワグマ対策研修を受けるとともに、一般客からの目撃情報の収集や普及啓発、笹や葎などの刈払い作業等に協力した他、巡視や追い払いを行いました。2017 年度は直近 10 年間では最も多い目撃件数となりました。



6. ゴミの計量及び域外搬出

群馬県のゴミ処理方針に基づき、山の鼻V Cから発生したゴミは、尾瀬地域から域外搬出して処理しました。なお、今年度の総搬出量は 930.5 kg（前年度 927 kg）で、昨年とほぼ同じ搬出量となりました。

7. 定時気象観測

5月31日～10月30日までの毎日、9時と15時に視程・雲量等の目視観測を行うとともに、山の鼻地区に設置した気象観測機器で気温・降雨量などの観測を行いました。

8. ニホンジカ対策（写真 9）

群馬県尾瀬保護専門委員会からの依頼を受け、深刻化するニホンジカによる湿原植生等の食害被害を把握するために、研究見本園などの攪乱地において防鹿柵や自動撮影装置の設置・撤去を行い、定期的な巡視・点検を実施しました。



(写真 1)

【自然観察会】

土日、祝日を中心に、山ノ鼻研究見
本園をフィールドとして実施。

時間：7:15～8:00



(写真 2)

【スライドショー】

土日、祝日の前夜を中心に、山の鼻
VCのレクチャールームにて実施。

時間 19:00～19:40



(写真 3)

【環境学習ミニガイドツアー】

山ノ鼻地区の排水処理のしくみな
ど、環境保全への取り組みについて
説明。

時間：随時受付 60 分以内



(写真 4)

【施設等の維持管理】

木道の状況に応じて、簡易な補修を実施



(写真 5)

【至仏山保全対策の取組】

踏み出し防止柵の設置
至仏山東面登山道、笠ヶ岳の一部で実施



(写真 6)

【尾瀬山の鼻VC開所式】

5月15日、財団関係者や山小屋関係者、登山者等の参加により開催



(写真7)

【傷病事故の対応】

防災ヘリコプターで搬送するため、
消防隊員が傷病者にハーネスの装着
等を準備



(写真8)

【ツキノワグマ対策の取組】

人とツキノワグマが不意に遭遇する
危険を減らすため、刈り払いを実施
(植物研究見本園)



(写真9)

【ニホンジカ対策の取組】

尾瀬ヶ原での防鹿柵の設置

コラム 尾瀬ボランティア

～ ビジターセンター運営充実を目指すパートナー ～

全国から集まるボランティア

尾瀬ボランティアは主に利用者に対する自然保護思想の普及啓発、美化清掃を行うために（公財）尾瀬保護財団が募集を行い、平成8年6月から組織されています。呼びかけの結果、全国から**312**人が登録され活動しています。

多くの活動形態

尾瀬ボランティア活動には大きく分けてプロテクターの活動と、インタープリターの活動があります。それぞれの主な活動メニューは次のとおりです。

（プロテクターの活動）

入山口（鳩待峠、沼山峠、大清水等）での啓発活動
入山口周辺や尾瀬ヶ原、尾瀬沼周辺等での美化巡回
至仏山東面登山道整備 等

（インタープリターの活動）

お話しボランティア活動（定点解説）
ビジターセンター支援ボランティア活動 等

現在の登録状況

312人（平成30年1月31日現在）

内訳：20都府県（群馬県**111**人、東京都**47**人、埼玉県**36**人、千葉県・神奈川県**28**人他）

平均年齢 **65.0**歳（最年長**87**歳、最年少**22**歳）

年度ごとの取り組み

（括弧内は参加のべ人数）▼

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
登録者数	582人	508人	558人	574人	500人	511人	514人	373人	384人	360人	367人
入山口啓発活動	44日(524)	30日(625)	36日(635)	36日(538)	32日(508)	34日(371)	33日(312)	29日(311)	33日(294)	27日(291)	27日(249)
スポット解説			3日(24)	10日(83)	15日(112)	15日(99)	16日(85)	15日(88)	19日(75)	19日(73)	19日(63)
移入植物除去			2日(31)	2日(29)	2日(29)	2日(14)	2日(9)	2日(11)			
植生復元※11				22人	11人	16人	9人	13人	13人	12人	16人
その他	※1	※2	※3.4	※5.6	※7.8	※9			※10		

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
登録者数	348人	363人	355人	365人	340人	347人	311人	287人	295人	323人	312人
入山口啓発活動	25日(177)	29日(153)	45日(146)	45日(114)	44日(135)	48日(126)	40日(98)	40日(115)	34日(96)	32日(116)	33日(118)
スポット解説	19日(44)	42日(43)	28日(56)	33日(58)	20日(34)	25日(35)	27日(32)	18日(25)	8日(15)	16日(26)	10日(22)
移入植物除去											3日(15人)
植生復元※11	13人			3人	5人	5人	7人	5人	8人		
その他	※12										※13

その他

- ※1 尾瀬クリーン大作戦（以降「ありがとう尾瀬清掃」として継続）
- ※2 鳩待峠路上駐車防止（現在は休止）
- ※3 至仏山登山道整備（以後継続）
- ※4 沼山峠に「尾瀬ボランティア活動詰所」設置
- ※5 啓発活動従事者講習会
- ※6 尾瀬ボランティア帽子配布
- ※7 県道沼田、檜枝岐線の植生回復作業（現在は休止）
- ※8 お話しボランティア用の旗作成
- ※9 鳩待峠に「尾瀬ボランティアハウス設置」
- ※10 各入山口ボランティアハウスに活動用の腕章を配備
- ※11 15年度までは至仏山、16～18年度は横田代、19年度は燧ヶ岳、22～27年度は至仏山で実施
- ※12 ビジターセンター支援ボランティア活動開始
- ※13 三平峠付近での桟木打ちボランティア活動開始

～ 尾瀬ボランティアのみなさま、これからも充実した運営のためにご協力をお願いします ～

平成29年度 尾瀬沼ビジターセンター運営記録

I. ビジターセンター管理運営

環境省の所管施設である尾瀬沼ビジターセンターの管理運営を平成8年度から受託しています。
(但し、平成26年度を除く。)

1. 運営期間

- (1) 職員駐在：平成29年5月16日(火)～平成29年11月2日(木) (171日間)
- (2) 開所期間：平成29年5月20日(土)～平成29年10月31日(火) (165日間)
- (3) 休館日：なし

※5月16日～5月19日は開所準備等、11月1日～11月2日は閉所作業等です。

2. 取扱時間

- (1) 施設開館 7:30～16:00
- (2) 窓口案内 7:30～16:00

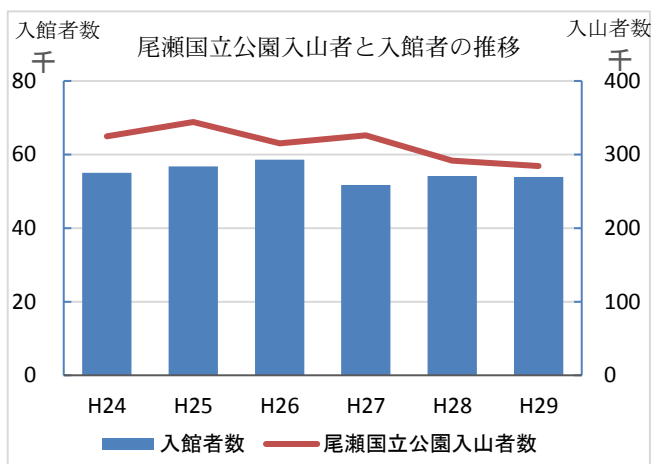
3. 入館者数

53,912 人

※参考(尾瀬国立公園入山者 284,390)
過去5年間の入館者数と尾瀬国立公園入山者数

	入館者数	尾瀬国立公園入山者数
平成28年度	54,189	(291,860)
平成27年度	51,762	(326,100)
平成26年度	58,599	(315,400)
平成25年度	56,739	(344,200)
平成24年度	55,037	(324,900)

(単位:人)



4. 職員構成

- (1) 人数 8 人
- (2) 構成

職	氏 名	主な分掌業務
責任者	阪路善彦	全体統括
副責任者	佐々木彩乃	統括補助、報道、事務職調整、勤務・休暇管理、植生復元・外来種
管理員	川上藍	電話対応、ゴミ管理、ヘリ対応、燃料管理、食事・清掃
管理員	江崎花絵	団体レクチャー、収入金、出納簿、月報報告、遺失物
管理員	西川眞治	団体レクチャー、パンフレット管理、ボラ支援、クマ・シカ対策
管理員	宮坂隆朋	窓口対応、展示関係、電話対応、機関誌、情報発信
管理員	佐野愛海	観察会・イベント、日誌管理、月報報告、用品管理
管理員	上村麻実	窓口対応、作業報告、公衆トイレ管理、傷病記録、用品管理

Ⅱ. 自然解説事業等

利用者に向けて尾瀬にふさわしい利用方法を啓発するとともに、豊かな自然の一端に触れ、自然の大切さを認識してもらうことを目的とし、ビジターセンター周辺とビジターセンター館内の展示室、レクチャールーム室及び掲示板等を利用し、自然解説や利用案内等を実施しました。

表 平成29年度 自然解説活動のまとめ

区分	自然観察会	夜のイベント	拡大イベント	見晴イベント	団体レクチャー
参加者数(人)	865 (96.1%)	1,553(92.6%)	235 (54.4%)	170 (132.8%)	741 (70.9%)
実施回数(回)	152 (211)	54 (52)	11 (31)	10 (14)	21 (24)

※1 表中カッコは、上段(%)が前年度比、下段(数値)が前年度実施回数。

2 自然観察会には、尾瀬を知るミニツアー及び朝イチ観察会を含む。

3 夜のイベントには、スライドショー及び「職員が語る尾瀬のあれこれ」、「星空観察会」、「お月見会」等を含む。

4 拡大イベントには、「あの人に学ぶ尾瀬」及び「シカ革を使ったワークショップ」、「手ぬぐいワークショップ」、「バックヤードツアー」、「秋の特別授業」、「来館者達成イベント」等を含む。

5 見晴イベントには、見晴スライドショー及び見晴観察会を含む。

1. 自然観察会(写真1)

尾瀬を感じるミニツアーは日中1回、朝イチ観察会は日曜日を基本とし、月曜日が祝日の場合には月曜日に実施しました。

①. 実施場所：大江湿原や尾瀬沼ビジターセンター周辺

②. 実施時間：9:30～10:00(尾瀬を感じるミニツアー)、7:30～8:15(朝イチ観察会)

③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

2. 夜のイベント(写真2)(写真3)

土日祝日の前夜等に主に山小屋宿泊者を対象として、季節写真や図表等を用いた通常のスライドショーの他に「職員が語る尾瀬のあれこれ」と題して各職員が得意とするいろいろなテーマでのイベントを行いました。さらに星空観察会、お月見会等を実施することで、尾瀬への理解と興味を深めてもらいました。

①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム及びビジターセンター周辺

②. 実施時間：19:00～19:45

③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

3. 拡大イベント

上記1. 2.とは別に拡大イベントとして「あの人に学ぶ尾瀬」及び「シカ革を使ったワークショップ」、「手ぬぐいワークショップ」、「浄化槽バックヤードツアー」、「秋の特別授業」、「来館者達成イベント」等を実施しました。

(1)「あの人に学ぶ尾瀬」(写真4)

利用者に尾瀬の魅力を再発見してもらうために、外部講師を招いてイベントを開催しました。第1回「歩荷さんを知っていますか」

①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム

- ②. 実施日：9月2日(土)19:00～19:45
- ③. 外部講師：五十嵐寛明氏、石高德人氏

第2回「檜枝岐村の人に聞いてみよう」(写真5)

桧枝岐村の歴史について、詳しく解説していただきました。

- ①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム
- ②. 実施日時：9月9日(土)19:00～19:45
- ③. 講師：地域おこし協力隊 城健史氏

(2)「シカ革を使ったワークショップ」(写真6)

尾瀬周辺で駆除されたシカ革を使って、参加者に尾瀬の思い出となるシカ革作品作りをしてもらいました。

- ①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターの展示室
- ②. 実施日時：7月8日(土)13:00～16:00、7月9日(日)7:30～12:00
- ③. 講師：おぜしかプロジェクト 小山抄子氏

(3)「手ぬぐいワークショップ」(写真7)

参加者にいろいろな葉柄を使ってオリジナルの手ぬぐい作りをしてもらいました。

- ①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム
- ②. 実施日時：9月16～18日、10月7～9日
- ③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

(4)「浄化槽バックヤードツアー」(写真8)

希望者には普段見ることができない污水处理施設を見てもらい、尾瀬の水をきれいにする仕組みについて説明を行いました。

- ①. 実施場所：尾瀬沼浄化槽及び污水处理施設
- ②. 実施日時：8月2日
- ③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

(5)「秋の特別授業」

「職員が語る尾瀬のあれこれ」として職員たちが作り上げた6つのテーマをまとめて1日で実施しました。

- ①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム
- ②. 実施日時：10月21日
- ③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員全員

(6)「来館者45000人達成イベント」

来館者45,000人達成を来館者とともに祝いました。

- ①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンター入口
- ②. 実施日時：9月22日

③. 担 当 者：尾瀬沼ビジターセンター職員全員

4. 見晴休憩所でのイベント（写真 9）

見晴休憩所においても夜のイベント（スライドショー）及び自然観察会を実施しました。

(1) 見晴スライドショー

①. 実施場所：見晴休憩所の多目的室

②. 実施日時：7 月 2、19 日、8 月 8、21 日、9 月 20 日、10 月 11 日の 19:00～19:45

③. 担 当 者：尾瀬沼ビジターセンター職員

(2) 見晴観察会

①. 実施場所：見晴地区周辺

②. 実施日時：7 月 3、20 日、8 月 9、22 日、9 月 21 日、10 月 12 日の 7:30～8:15

③. 担 当 者：尾瀬沼ビジターセンター職員

5. 団体レクチャー

事前に依頼を受けた学校関係者や尾瀬を勉強している社会人グループに対して、スライドショーや自然観察会を開催し、環境保全の取り組みや自然への理解を深めていただきました。

計：21 団体（741 人）

6. ビデオ上映

尾瀬の四季を紹介した「尾瀬国立公園の四季」（約 18 分）や「尾瀬国立公園の誕生」（約 18 分）などのビデオ（スライド形式）の上映を随時受け付けました。

7. 館内解説

不定期で館内展示物の利用案内を含めた解説を実施しました。

8. 常設展示（一部抜粋）

① 尾瀬沼フィールド情報コーナー（尾瀬沼周辺の最新情報の発信）

② 花ごよみ（写真による季節ごとの植物の紹介）

③ 尾瀬情報コーナー（巡回等で収集した情報を定型にまとめて掲示）

④ 燧ヶ岳と尾瀬沼のおいたち（尾瀬沼地域のジオラマの設置）

⑤ 尾瀬沼のトイレと污水处理

⑥ オコジョコーナー（写真、目撃情報の紹介）の展示

⑦ ツキノワグマコーナー（生態、目撃情報、対策等の紹介）の展示

⑧ 尾瀬に生息する動物の剥製、毛皮、骨の展示

⑨ 尾瀬のシカコーナー（環境省アクティブレングジャーによるシカの行動調査）の展示

⑩ 尾瀬の野鳥コーナーの展示

⑪ 尾瀬に生育する 4 種の樹木を用いた展示

⑫ 音風景展示（川の流れや鳥のさえずりなどの自然音を通した展示）

⑬ 尾瀬沼周辺の樹木の展示（葉から樹木を理解する展示）

9. 企画展示（写真 10）

今年度は、平成 28 年度尾瀬沼ビジターセンター等企画展示物作成業務請負先業者が作成した

展示物①と尾瀬沼地区運営協議会が作成した展示物②で企画展示を行いました。

①「檜枝岐からみた尾瀬」企画展示

展示期間：5月20日(土)～10月31日(火)

②「会津駒ヶ岳と田代山帝釈山再発見」企画展示

展示期間：6月16日(金)～10月31日(火)

10. 自然情報等のリアルタイムな収集と発信

尾瀬沼を中心とした地域の自然情報や利用情報等の収集を行い、得られた情報を利用者及び関係機関等に提供しました。巡回範囲外の尾瀬ヶ原地域や会津駒ヶ岳、田代山等については、尾瀬山の鼻V Cなどの関係機関と協力し情報の収集と発信を行いました。収集した情報は、V C館内での掲示及び配布、Facebook等のインターネットにより利用者へ提供しました。また、山小屋や入山口周辺の施設、関係機関へは尾瀬山の鼻V C及び本部などと連携し、紙面や電子ファイルなどにより情報を提供しました。

Ⅲ. 施設管理及びその他の業務

1. 傷病者発生時の対応（写真 11）

檜枝岐村遭難対策協議会（尾瀬沼地区本部 尾瀬沼ヒュッテ）の指示により、尾瀬沼地区周辺で発生した傷病者の対応を行いました。対応した件数は以下のとおりです。なお、切り傷等の窓口対応のみの事象も含まれています。

計： 24件（うち、担架搬送3件、ヘリ搬送7件、AED対応0件）

2. 危険箇所の掲示（写真 12）

巡回などで危険と判断した箇所について、必要に応じて除雪や注意喚起看板、またはロープ柵の設置を行いました。また湿原への踏み込み防止のために、必要に応じてロープ柵等の設置を行いました。また、自然災害等による被害が発生した場合には、現地に注意喚起看板を設置するとともに、関係機関等に迅速な情報発信を行いました。

3. 非常時における公園利用者の誘導及び安全措置の実施

台風や豪雨等の荒天時には、朝方に木道・登山道などの巡視を行い、冠水・倒木等の状況を確認して迅速に関係機関への情報提供を行いました。

また、その他の緊急時においても利用者への情報提供及び注意喚起看板の設置等の必要な対策を行いました。

4. ニホンジカ捕獲業務の補助作業

尾瀬沼周辺で行われるニホンジカ捕獲業務において、シカセンサー受信機による確認作業やシカセンサー反応後の現場確認、状況報告を行いました。

Ⅳ. 尾瀬沼ビジターセンター職員が兼務したその他の事業

1. 尾瀬沼集団施設地区公衆便所清掃等業務

尾瀬沼地区運営協議会から委託を受け、尾瀬沼公衆便所の清掃業務等を行いました。

2. 福島県特植事業

(1)尾瀬地区植生復元調査等業務

尾瀬地区の福島県地域における植生復元事業として、雪圧により沈下した調査杭の引き起こし等の管理、外来植物及び平地性植物除去及び堀の清掃作業などを行いました。

3. 財団自主事業

(1)尾瀬ボランティア活動支援

入山口啓発活動（沼山口）やお話ボランティア活動等におけるコーディネートを行いました。

(2)外来植物対策事業（写真 13）

外来植物オオハンゴンソウの増殖を防ぐために、小沢平口にて関係機関と連携し除去活動を行いました。



(写真 1)

【自然観察会】

日中一回の尾瀬を知るミニツアーや、日曜日を中心とした朝イチ観察会を尾瀬沼ビジターセンター周辺をフィールドとして実施。

ミニツアー：9:30～10:00

朝イチ観察会：7:30～8:15



(写真 2)

【スライドショー】

週末や繁忙時期を中心に、尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールームにて実施。

時間：19:00～19:45 45分程度



(写真3)

【星空観察会】

星空観察会のほか、お月見会等も実施。

天気がよくない時は、レクチャールームにて解説を実施。

時間：19:00～19:45 45分程度



(写真4)

【拡大イベント】

（歩荷さんを知っていますか）

歩荷の五十嵐氏、石高氏を迎えて、話をしてもらい、歩荷体験を実施。



(写真5)

【拡大イベント】

（檜枝岐村の人に聞いてみよう）

檜枝岐村の城健史氏を招いて、檜枝岐村と尾瀬との関係、檜枝岐村の歴史について語ってもらいました。



(写真6)

【拡大イベント】

(シカ革を使ったワークショップ)

おぜしかプロジェクトの小山抄子氏を招いて、昨年度好評だったシカ革を使ったアクセサリー作りを実施。



(写真7)

【拡大イベント】

(手ぬぐいワークショップ)

様々な葉柄を使ったオリジナルの手ぬぐい作りをしてもらいました。



(写真8)

【拡大イベント】

(浄化槽バックヤードツアー)

公衆トイレ、汚泥処理の仕組み、多額の費用がかかること等を説明



(写真 9)

【見晴イベント】

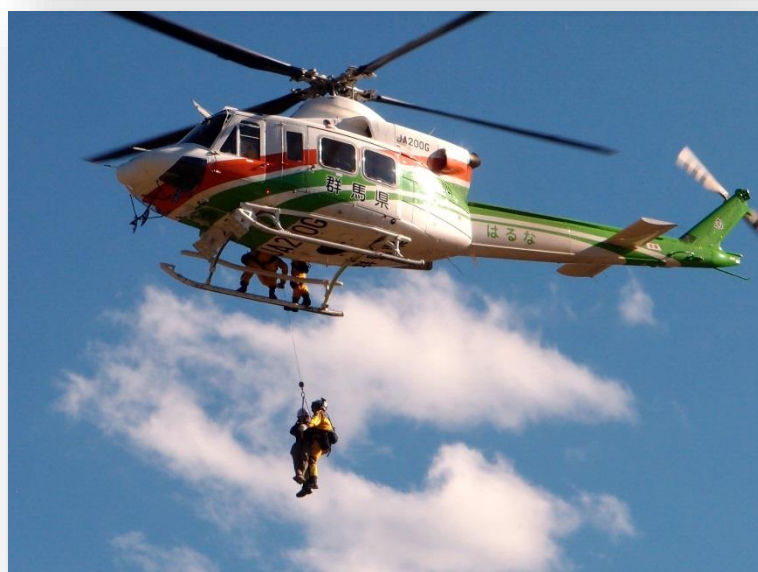
見晴地区で見晴スライドショーを実施



(写真 10)

【企画展示】

「会津駒ヶ岳と田代山帝釈山
再発見」



(写真 11)

【傷病事故の対応】

防災ヘリコプターで搬送される傷病
者（釜ッ堀湿原）



(写真 1 2)

【ロープ柵の設置、撤去】

湿原への踏み込みを防止するために
ロープ柵を設置。



(写真 1 3)

【福島県植生復元調査】

シカの食害影響調査に同行
(大江湿原)



(写真 1 4)

【外来植物駆除】

小沢平口付近にて、関係者と協力し
外来植物オオハンゴンソウの駆除作
業を実施。

コラム 尾瀬自然解説ガイド

～ビジターセンターのサポート～

尾瀬自然解説ガイドとは ～自然に親しむお手伝い～

主に滞在時間の短い入山者を対象にした自然解説のためのガイドです。自然に親しむとともに、マナーの向上を図り、尾瀬の適正な利用を推進することが目的です。参加料は1人当たり500円～1,500円で、保険料や緊急時の無線機購入などの事務費に充てています。ガイド本人には、鳩待峠・御池～現地までのバス代などの一部を補う程度で、給与や報酬は支給していません。なお、尾瀬自然解説ガイドの催行はビジターセンターが起点、終点になっています。

活動の意義 ～尾瀬を深く理解してもらうために～

尾瀬サミット2002で、尾瀬におけるガイドの役割とガイド資格の課題が議論されたことをきっかけに、財団のガイド事業への取組が始まりました。財団では、尾瀬に対する理解を深めてもらうためには、尾瀬の自然の素晴らしさを実感してもらうことに加え、尾瀬の自然保護に対しても十分理解してもらうことが必要だと考えています。ガイドは、尾瀬の魅力や大切さを掘り下げて利用者に伝えることのできる担い手です。尾瀬自然解説ガイドの利用を通じて、多くの入山者に貴重な尾瀬の自然を体感してもらえるよう活動を続けています。

活動の実績

年度	合計利用者数(人)	尾瀬ヶ原ガイド利用者数 (人)	尾瀬沼ガイド利用者数(人)
18	240	190	50
19	252	245	7
20	452	448	4
21	294	290	4
22	292	292 (内尾瀬学校は 113)	0
23	239	197 (内尾瀬学校は 135)	42
24	642	450 (内尾瀬学校は 372)	192
25	890	633 (内尾瀬学校は 558)	257 (内環境学習は 255)
26	155	155 (内尾瀬学校は 122)	—
27	487	477 (内尾瀬学校は 415)	10
28	379	322 (内尾瀬学校は 256)	57
29	458	444	14

信頼される自然解説ガイドを目指して ～質の高いガイドの人材を確保～

ガイド事業の成否を決めるのは、ガイドの質そのものです。尾瀬自然解説ガイドでは、IP（インタープリテーション）研修を受講済みの尾瀬ボランティアの方を対象に、導入研修を実施し、レポートの提出・現地研修をもって、ガイド登録を行っています。現在18名のガイドが登録されています。

また、催行中の事故等にも対応できるよう、3年おきに救急救命講習の受講を義務づけたり、既登録者対象の技術研修を実施するなど、ガイドレベルの維持向上に努めています。

ビジターセンターとの連携 ～利用者の安全のために～

尾瀬自然解説ガイドは無線機を持ち歩き、ビジターセンターと連絡を取り合っています。それは、ビジターセンターにガイド状況を適切に伝えることにより、ガイド利用者の安全を確保していくためです。尾瀬はラムサール条約に登録され、また単独の尾瀬国立公園に指定されたことにより、さらなる注目を集めています。安心して安全な尾瀬利用を確保するため、安全確保に対するガイドの質も重要になっていくことでしょう。

～ ビジターセンター利用者みなさま、これからも充実した運営のためにご意見をお願いします ～

コラム 一般の方から寄せられた声

～ビジターセンターに寄せられた声から～

- ◇ 尾瀬は季節によりコースにより見える顔が違うので、いつ来ても楽しいです。入山者の分散のためにも富士見峠までの公共交通があればと思います。(大清水の様に)。
 - ◇ 尾瀬には、色々な動物がいることが分かりました。ありがとうございます。
 - ◇ 尾瀬に来たことがある妻に提案され、6/5から2泊3日の初めての尾瀬を楽しみました。テレビや雑誌などで度々紹介されていますが想像以上の素晴らしさでした。広く奥深い自然、早朝カッコーの鳴き声(午前4時頃から)での目覚め、山も森も池ももちろんミズバショウも、すべてが魅力に満ちあふれ感動しました！違う季節にまた訪れてみたい自然豊かな場所です。この環境がみなさんをはじめ全員の努力でいつまでも続きますように。「木道」を作り、守ってくださる皆さんにも感謝！です。
 - ◇ 「さわってみよう」のところに毛皮がすばらしかったです。みんなよろこんでいました。また、パソコンで名前検索できるのも、すばらしかったです。
 - ◇ とてもきれいで息をのむほどでした。左の方にまだ古い道がありました。(古い木道)
 - ◇ 尾瀬にいる動物の皮や動物を見ることができて勉強になりました。今日1日楽しかったです。
 - ◇ 景色がとてもきれいでした。尾瀬山の鼻ビジターセンターに色々な尾瀬の自然があつてよかったです。スタンプがかわいかったです。
 - ◇ 50数年前、東電小屋、長蔵小屋に宿泊して以来何回目かの尾瀬です。延長された木道で快適な散策を楽しみました。三条ノ滝にも行きました。木道材料の耐用年数・価格を知り感謝の気持ちで一杯です。
 - ◇ ミズバショウの時期には、もう何回も来ているのですが、今回初めて紅葉を楽しめました。高山植物や山の景色が好きで、上高地や白馬が残されていることは貴重です。
 - ◇ 燧ヶ岳～見晴新道を下りました。ぬかるみがひどく、びっくり！！かなり時間がかかってしまいました。事前に情報があればよかったと思います。
 - ◇ 尾瀬のライブカメラが2つしかインターネットに出ていないのは問題ではないでしょうか。スキー場並みに増やして欲しいと思います。今回尾瀬沼1周が禁止だったことがインターネットに出ていませんでした。せっかくインターネット上に紹介があるので、もっとインターネットを活用して若い人たちに尾瀬散策を勧めて欲しいです。
 - ◇ 大江湿原分岐箇所のだ標に長英新道の案内を加えて欲しいです。長英新道から燧ヶ岳に登る初心者には、道がわかりづらく思います。
 - ◇ ニッコウキスゲの減少には大変ショックを受けました。何か対策等はされているのでしょうか。多少の対策はされていると思いますが、実感が伴ってきません。残念です。入山の有料化等で生き延びる対策を考えてください。
 - ◇ 登山の時に必ずビジターセンターに立ち寄りますが、今までで一番よい尾瀬沼ビジターセンターでした。これからも楽しませてください。
 - ◇ とてもよい展示で、勉強になりました。ただ情報を並べているだけでなく、分かりやすく楽しめる工夫がされていてよかったです。ハンズオン展示がインタラクティブで楽しかったです。スタッフの方も丁寧に答えてくださり、ありがたかったです。
 - ◇ 大切な自然をずっと守っていくために、これからも規則を守り協力をしていきたいと思っています。本日はすてきなイベントに参加できて幸せです。感動しました。ありがとうございました。
 - ◇ 色々と工夫されているイベント、展示に学ぶことが多々ありました。昨夜の宮坂さまの「夜の自然音」の話が良かったです。
 - ◇ 職員が語る尾瀬「尾瀬の野鳥」で、写真や動画等がたくさんあり、とても楽しく過ごすことができました。野鳥について、少し詳しくなり明日森を歩くのが楽しみです。
 - ◇ 職員が語る尾瀬「自然の宝庫はなぜ残ってきたのか」今回は尾瀬の歴史と尾瀬が奇跡的に残ったことがよく理解できました。毎年のように来っていますが、毎年展示やスライドショーの内容が同じではないので、毎回楽しみにしています。
 - ◇ 星空観察会、雲が多く星座が見られなくて残念に思いました。パソコンを使用して今の星座の感じがよく分かりました。北極星の説明も楽しく思いました。
- ※一部抜粋して掲載しています。

巻末資料 1

平成 29 年度 ビジターセンター傷病者対応事例

尾瀬山の鼻ビジターセンター対応事例（担架搬送、ヘリ搬送したものを抜粋）

歩道上の転倒	額を打ち裂傷。止血し安静にしていたが、翌日に防災ヘリで搬送。
病気	朝から調子が悪く、帰路の途中嘔吐し歩行困難。現場から見本園へ搬送しヘリ搬送。
木道上の転倒	右足首損傷し自力歩行困難。現場から見本園へ搬送しヘリ搬送。
木道上の転倒	左膝損傷し自力歩行困難。現場から 2 名で VC へ搬送。見本園からヘリ搬送。
病気	AED 使用後心臓マッサージを実施。現場からヘリ搬送。
病気	病歴の後遺症か、自力歩行困難。見本園へ搬送しヘリ搬送。

尾瀬沼ビジターセンター対応事例（担架搬送、ヘリ搬送したものを抜粋）

徒渉失敗	尾瀬沼第二公衆トイレで骨折・捻挫の疑い。自力歩行困難のためヘリ搬送。
病気	尾瀬沼 VC 前で意識を失い転倒。ヘリ搬送。
病気	浅湖湿原の先、森林内で痙攣、発作ののち倒れる。ヘリ搬送。
歩道上の転倒	尾瀬沼南岸で転倒、骨折の疑い。自力歩行困難のためヘリ搬送。
歩道上の転倒	白砂峠付近で転倒、骨折の疑い。自力歩行困難のためヘリ搬送。
病気	山小屋内で発作。ヘリ搬送。
木道上の転倒	尾瀬沼南岸で転倒、骨折の疑い。自力歩行困難のためヘリ搬送。

巻末資料 2

－平成 29 年度 尾瀬のできごとをふりかえる－

平成 29 年度は例年より多い積雪でした。異例の少雪だった昨年に比べ、尾瀬ヶ原のミズバショウはキレイな仏炎苞をつけ、ワタスゲは当り年で見事な白い果穂の群落を見る事ができました。7 月 1 日に山開きとなった至仏山は、例年より残雪が多かったため踏み抜き注意やアイゼン装備などの注意喚起を掲示しました。この残雪の為、尾瀬沼南岸でも一時通行止めとしていました。

第 4 次学術調査の現地調査が始まりました。

また、ツキノワグマの目撃が多発し、過去の直近 10 年間では一番多い年になりました。特に鳩待峠～山ノ鼻間の 8 月・9 月はほぼ毎日のようにツキノワグマの目撃があり、尾瀬山の鼻ビジターセンターの職員はその対応に追われる毎日でした。

尾瀬ヶ原周辺のできごと (尾瀬山の鼻ビジターセンター報告)		尾瀬沼周辺のできごと (尾瀬沼ビジターセンター報告)	
4 月			
1 7	開設準備のため上山(除雪作業)		
2 8	鳩待峠までの道路通行止め解除		
"	山の鼻公衆トイレ供用開始		
5 月		5 月	
1 0	管理員上山	1 6	管理員上山
1 1	見晴沼尻橋の橋板設置	1 9	御池～沼山峠間バス運行開始
1 2	ツキノワグマ研修	2 0	ビジターセンター開所
1 5	ビジターセンター開所式	"	尾瀬を知るミニツアー開始
1 9	尾瀬山開きが戸倉で開催	"	夜のスライドショー開始
1 9	夜のスライドショー開始	2 1	朝イチ観察会開始
2 0	朝の観察会開始も積雪のため中止		
2 2	防鹿柵設置(竜宮地区)		
2 3	尾瀬ガイド協会鳩待山ノ鼻間除雪		
6 月		6 月	
2	群馬TVが尾瀬取材	3	ごみ持ち帰り運動(沼山峠口)
3	ごみ持ち帰り運動(鳩待峠口)	"	ごみ持ち帰り運動(大清水口)
"	支援ボラ開始	4	轟音玉講習会
4	轟音玉講習会	1 0	オサバグサ祭り
1 0	防鹿柵設置(研究見本園)	1 1	田代山山開き
1 1	シカ電気柵設置	1 9	ボランティアハウス設置(沼山峠口)
1 7	轟音玉講習会	2 6	消防点検
1 8	至仏山東面登山道踏み出し防止柵設置 (尾瀬ボランティアが協力)	2 7	消防訓練を実施
2 4	防鹿柵設置(背中アブリ)		
2 5	至仏山残雪調査		
7 月		7 月	
1	至仏山山開き	1	会津駒ヶ岳夏山開き
3	尾瀬国立公園 10 周年イベント開始	2	燧ヶ岳夏山開き

1 7	下ノ大堀橋付近木道修繕	2	見晴休憩所で夜のスライドショー実施 (10/11 まで計 7 回)
2 2	笠ヶ岳登山道踏み出し防止柵設置	3	見晴園地で朝の観察会を実施
2 7	テンマ沢湿原にクマ監視カメラ設置	8～9	シカ革のワークショップを実施
2 9	白尾山～皿伏山～尾瀬沼間巡回	1 0	福島県植生復元作業
3 0	下ノ大堀橋付近木道修繕	21～22	職員が語る尾瀬のあれこれ「尾瀬の音風景」を実施
		28～29	職員が語る尾瀬のあれこれ「尾瀬に住む野鳥」を実施
8 月		8 月	
1	クマ巡回強化	1～4	尾瀬子どもサミット
3	テンマ沢湿原ミズバショウ刈払い	10～12	職員が語る尾瀬のあれこれ「この木なんの木？」を実施
10～15	テンマ沢クマ監視	18～19	職員が語る尾瀬のあれこれ「檜枝岐村と尾瀬沼」を実施
1 3	大清水平～皿伏間倒木処理	21～24	星空観察会を実施
2 0	自然解説ガイド研修会実施	23～24	福島県植生復元作業
20～28	テンマ沢クマ監視	25～26	職員が語る尾瀬のあれこれ「尾瀬の自然はなぜ残ってきたのか」を実施
2 2	見本園クマ対策草刈り実施	3 0	白尾山～皿伏山～尾瀬沼間巡回
30～31	尾瀬サミット戸倉で開催		
9 月		9 月	
9～11	財団主催の I P 研修を山ノ鼻で開催	2	あの人に学ぶ尾瀬「歩荷さんに聞く」を実施
1 2	外国人モニター研修実施	6	切削工事現場説明会
1 3	V C 工事開始	7	小沢平のオオハンゴウ駆除作業
1 5	クマ捕獲用罟搬入	9	あの人に学ぶ尾瀬「檜枝岐村の人に聞く」を実施
1 7	至仏山登山道の整備	1 3	星空観察会を実施 (9/13、15)
1 8	台風 1 8 号の影響による停電。公衆トイレはバケツリレー	16～17	職員が語る尾瀬のあれこれ「この木なんの木？」を実施
2 2	公衆トイレ前デッキ工事終了。公衆トイレ洋式化工事開始	16～18	手作り手ぬぐいワークショップを実施
2 7	V C ガス給湯器取替え工事終了	1 8	台風 1 8 号の影響による大江湿原の倒木を処理
3 0	沼 V C 遭難救助中継依頼夜中まで	"	台風 1 8 号の影響により電柱折損
		18～20	星空観察会を実施
		2 2	来館者 45000 人達成イベントを実施
		2 6	消防訓練を実施
		2 7	エゾスズラン移植作業
10 月		10 月	
2	V C デッキ取替え工事開始	2	ナデッ窪の倒木処理
5	至仏山初冠雪	3	お月見会を実施
6	V C デッキ工事、展示室前出入口使用不可	5	燧ヶ岳初冠雪
9	2 9 年度交通規制終了	7～9	手作り手ぬぐいワークショップを実施

1 1	シカ電気柵撤去	1 1	見晴休憩所での夜のスライドショー終了
	カメムシ忌避剤散布	1 2	見晴観察会終了
	至仏山東面登山道石切り作業	1 3	福島県植生復元作業
1 4	「ありがとう尾瀬」清掃	1 4	「ありがとう尾瀬」清掃
1 5	笠ヶ岳柵外し	"	パークボランティア解散式
1 6	女子トイレ9基閉鎖	1 8	ボランティアハウス撤去（沼山峠口）
2 0	防鹿柵撤去（見本園・竜宮・背中アブリ）	1 9	尾瀬沼で初雪を観測
2 1	至仏山東面登山道踏み出し防止柵撤去 （尾瀬ボランティアが協力）	2 1	秋の特別授業を実施
2 2	女子トイレ閉鎖	"	星空観察会を実施
2 3	台風21号の影響で鳩待～戸倉間通行止 め。下ノ大堀橋付近では増水のため工事の 仮木道が流失し通行止め。 窓口業務時間 8:00～16:00	2 2	朝イチ観察会終了
2 8	見晴沼尻橋板撤去	2 3	台風21号の影響で国道352号（御池～キ リシテ間）通行止め
"	八木沢倒木処理	30～31	雪と倒木のため、御池～沼山峠間バス運休
2 9	VC閉館	3 1	VC閉館
1 1 月		1 1 月	
2	管理員下山	2	管理員下山
5	下ノ大堀橋橋板撤去		
"	公衆トイレ供用終了		
6	職員下山		

巻末資料 3

～ 平成 29 年シーズンの尾瀬トピックス ～

- ✧ 例年より残雪が多かったため、戸倉～鳩待間の供用開始が予定より一週間遅れ、4/28 となりました。
- ✧ 尾瀬山の鼻ビジターセンターの開所式が行われ(5 月 15 日)、尾瀬ボランティアによるハーモニカと草笛のコラボレーション演奏が披露されました。
- ✧ 尾瀬沼集団施設地区では、再整備工事が進んでいます。
- ✧ 尾瀬山開きが、尾瀬ぷらり館(群馬県側)で開催されました。(5 月 19 日)
- ✧ 大清水口から一ノ瀬まで低公害車両による乗合運行が 6 月 24 日から開始されました。終了は 10/15(114 日間)※その年の天候や路面状況で年によって変更あり。
- ✧ 尾瀬が単独国立公園に指定されてから 10 周年となり、各方面でイベントが開催されました。
- ✧ 尾瀬沼地区で 3 県(群馬、福島、新潟)主催の「尾瀬子どもサミット」が開催されました。3 県の小中学生 59 名(定員 60 名)が集まり、尾瀬の自然について体験し、学ぶとともに交流を行いました。(8 月 1 日～8 月 4 日)
- ✧ 鳩待峠～山ノ鼻間でツキノワグマの目撃が多発。事故防止のため関係者によって集中監視体制をしくと共にテンマ沢湿原周辺のより広い範囲の草刈りを実施しました。(8 月 3 日)
- ✧ 尾瀬サミットの開催に合わせ、尾瀬の単独国立公園 10 周年を記念した式典も開催されました。(8 月 30 日～8 月 31 日)その際、3 県知事を含めた関係者が目を入れた「だるま」が山ノ鼻と尾瀬沼の両ビジターセンターに設置され、来訪者にそれぞれの尾瀬への思いをダルマに書き入れてもらいました。
- ✧ 外国人対象の尾瀬モニターツアーが開催され、尾瀬が初めての外国人たちに尾瀬の自然や環境保護の取組等を理解していただくイベントが実施されました。(9 月 12 日)
- ✧ 大型の台風 18 号の影響で山ノ鼻地区が停電になり、公衆トイレの水をスタッフがバケツリレーにて対応しました。尾瀬沼地区でも台風 18 号の影響で電柱 1 本が折れました。(9 月 18 日)
- ✧ 山ノ鼻公衆トイレ前のデッキ工事と便器の洋式化工事が始まりました。(9 月 22 日)
- ✧ 燧ヶ岳の登山者から救助の依頼があり、その対応が夜中までかかりました。(9 月 30 日)
- ✧ 山の鼻 V C のデッキ補修工事がはじまり、展示室前の出入りが出来なくなりました。(10 月 2 日)
- ✧ 台風 21 号の影響により鳩待～戸倉間で車両が一時通行止めとなり、尾瀬ヶ原の木道工事の下ノ大堀川橋の仮設木道が流されこちらも一時通行止めとなりました。(10 月 23 日)
- ✧ 今年度の尾瀬国立公園の入山者は 284,390 人と 2 年連続で 30 万人を下回る結果となりました。5 月及び 6 月初旬に残雪が多かったこと、また 10 月に台風襲来が多かったことが要因として考えられます。一方で、夏季の湿原植物(6 月～9 月)を見に来る入山者数は昨年度を上回りました。(対前年比 104.8%)

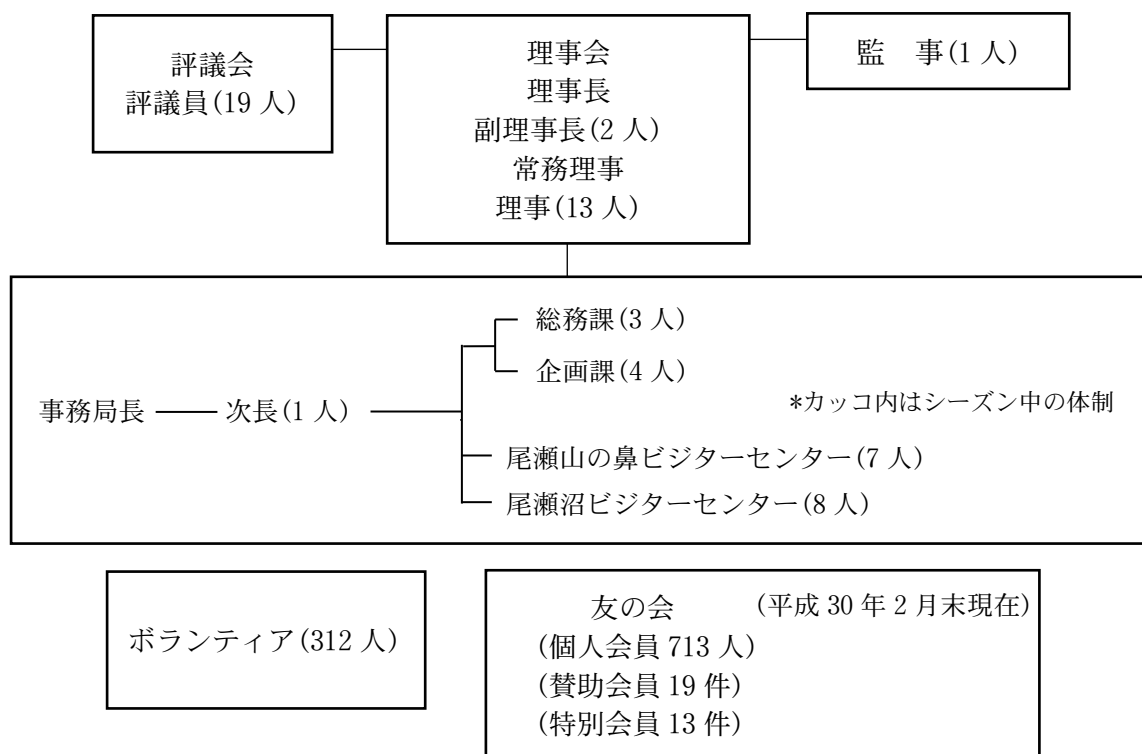
尾瀬保護財団の沿革と概要

財団の沿革

平成 4 年 8 月 4 日	福島・群馬・新潟三県知事による「尾瀬サミット」(尾瀬沼山荘)
平成 7 年 6 月 13 日	財団設立発起人会(東京都内)
” 8 月 3 日	財団設立、第 1 回理事会(尾瀬沼ヒュッテ) 群馬県大友庁舎(前橋市大友町)に事務所設置
平成 8 年 5 月 15 日	尾瀬沼ビジターセンターの運営開始(環境庁から受託)
” 5 月 18 日	尾瀬山の鼻ビジターセンターの運営開始(群馬県から受託)
平成 9 年 4 月 1 日	群馬県公社総合ビル(前橋市大渡町)に事務所移転
平成 11 年 7 月 13 日	特定公益増進法人に認定(財団への寄附につき税制上の優遇措置が受けられる制度。以後 2 年毎に認定を更新)
” 9 月 3 日	群馬県庁(前橋市大手町)に事務所移転
平成 25 年 4 月 1 日	内閣総理大臣により「公益財団法人」への移行が認められる

財団の概要

- ・ 設立日 平成 7 年 8 月 3 日
- ・ 基本財産 約 15 億円(平成 29 年度末現在)
- ・ 主な事業 入山者啓発、自然解説、植生復元、施設管理、調査研究、顕彰事業など
- ・ 組織体制



施設概要

- ・ 尾瀬山の鼻ビジターセンター 設置者：群馬県
鉄骨木造 2 階建 延床面積 344 m² 平成 5 年築
展示室 69 m² レクチャールーム 80 m² 事務室 17 m²
- ・ 尾瀬沼ビジターセンター 設置者：環境省
鉄骨木造 2 階建 延床面積 493 m² 昭和 60 年築
展示室 132 m² レクチャールーム 99 m² 事務・会議室 32 m²

この冊子について

この冊子は、公益財団法人尾瀬保護財団が受託運営する尾瀬山の鼻と尾瀬沼の両ビジターセンターの平成 29 年度実績報告をまとめたものです。活動の概要を関係者へ報告するとともに、今後の運営資料として活用するために作成しています。

☆集計方法について

ビジターセンター入館者数 公衆トイレ利用者数

- ・ 施設に設置されているセンサーで自動計測した結果をそのまま集計しています。
- ・ 停電等により計測に不具合があった場合は、適宜補正しました。また自動計測のため、例えば行列や感知器の前に障害物がある場合には実際との誤差が発生しますが、これについては補正していません。公衆トイレについては山ノ鼻のみセンサーが設置されています。

その他

- ・ 比率（％）で示した数値は、すべて小数点以下第 2 位を四捨五入しています。
- ・ 本文中に「V C」とある場合は、「ビジターセンター」と読み替えてください。

平成 2 9 年度

尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター運営記録

平成 3 0 年 3 月

〒371-8570 群馬県前橋市大手町一丁目 1 番 1 号

公益財団法人 尾瀬保護財団

Tel (027)220-4431

fax (027)220-4421

ホームページアドレス <https://www.oze-fnd.or.jp/>

E-mail アドレス info@oze-fnd.or.jp

ビジターセンターの 自然体験プログラム

— お問い合わせは —
公益財団法人 尾瀬保護財団
〒371-8570 群馬県前橋市大手町 1-1-1
TEL 027-220-4431
FAX 027-220-4421
E-mail : info@oze-fnd.or.jp

ビジターセンターでは利用者に尾瀬の自然の大切さを知ってもらい、マナーを守りながら利用してもらうためのさまざまなイベントを催しています。

ビジターセンターは山ノ鼻（尾瀬ヶ原の入口）と、尾瀬沼の東畔にあります（表紙裏の地図参照）。散策前に是非立ち寄ってみてください。

※ 天候等により実施しない日もありますので、事前に財団へお問い合わせください

窓口	展示
スタッフが尾瀬のことにお答えします 窓口時間 山の鼻 VC 7:30～16:00 尾瀬沼 VC 7:30～16:00	尾瀬のことがわかりやすくまとまっています。 開館時間 山の鼻 VC 7:00～18:00 尾瀬沼 VC 7:30～16:00
尾瀬情報	ビデオ上映
花の見頃や登山道の様子が毎週更新されています。 お出かけの前にチェックしてみてください。 尾瀬情報は尾瀬保護財団ホームページでも掲示しています。 URL https://www.oze-fnd.or.jp/	尾瀬のビデオが上映されています。 山の鼻ビジターセンターで上映 Hi-Vision「驚異の食虫植物モウセンゴケ」(20分) Hi-Vision「トンボ」(18分) Hi-Vision「クモ」(18分) 「尾瀬その成り立ちとしくみ」(16分) 「尾瀬はふるさとー空を渡る生き物たちー」(10分) 尾瀬沼ビジターセンターで上映 「尾瀬国立公園の四季」(16分) 「尾瀬沼の四季」(13分) *ほかにさまざまなビデオがあります。
セルフガイド	スライドショー
一人でも自然観察ができるガイドマップが揃っています。 「鳩待峠～尾瀬ヶ原」「研究見本園」「大清水～尾瀬沼」 「アヤメ平」「燧裏林道」「尾瀬沼」などがあります。	スライドのはなしを聞きながら尾瀬の不思議を知る 「今日のショーはあるの?」と利用者から尋ねられる程の定番企画です。まずは参加してみてください。 土日祭日の前夜:19:00～19:45(45分程度) ※ 開催時期についてはお問い合わせください。
自然観察会	団体レクチャー
一緒に湿原へ出てみましょう! 周辺の湿原で動植物の観察をしながら散策をします。 山の鼻 VC 7:15～8:00, 尾瀬沼 VC 9:30～10:00 等 ※ 開催時期についてはお問い合わせください。	グループで尾瀬を学びたいので、案内して欲しい事前に申込みのあった団体には、観察会やスライドショーなどのプログラムを実施しています(要予約)。
企画展示	拡大イベント(尾瀬沼 VCにて実施)
尾瀬を深く知るための特別展示です。 ※ 開催時期・内容についてはお問い合わせください。	専門家をお招きすることで、より深く専門性の高いイベントを実施しています。※開催時期についてはお問い合わせください。
尾瀬自然解説ガイド	
実施日を限定して、自然解説ガイドが短時間のガイドをします(コース限定、有料、要予約)。 ※ 開催日についてはお問い合わせください。	
お話しボランティア	
平日の休憩ベンチには個性豊かな解説ボランティアがいます。 ※開催時期や内容についてはお問い合わせください。	

この他、ビジターセンターに関する色々な情報は、尾瀬保護財団のホームページをご覧ください。